



古老軍物語卷第五回

赤松陣正と長山遠江守と勇力也事

内海十郎後馬よりりて敵と打ち事

陣平は女成いませし事

大將軍の糧乃を敵よりらる事

山名陸奥守の妻自害事

敵は返忠成して自志とて報事

軍士の物見成論とす事

左系亮貞俊最後奇事

敵の味方とありありと定事

幸付備三代大將事

畑六郎左衛門尉病おろして死する事
 敵かりひきりて幾らんともふらんを
 けふ事付 趙亮五事
 野中八郎多負成とすけし事
 多負成九郎 多負成をせしけふ事
 大内義隆公家よ武通とせしめて滅却し事
 付唐の穆宗皇帝此事
 系隆余ある事付 西上松友銀乃事
 伴能の初九郎少孫家とふ事 付 友想の事
 上秋則改名子息と能成家(もと事付 町人
 頼りけり事



古老軍物語巻第五

赤松弾正と長山遠江守と勇力代戦ひ事
 古老乃物語といく 文和二年六月よ山名左衛門
 氏じりんとさう 赤部よ勇力のり事 相中内義隆
 初長もじりひか長川の東ありて陣とひし軍わ
 里より小義隆の陣よりけりて殺す事 中平小
 長山遠江守は草花燈の事ありさう 小経頼乃甲れ
 総とめ月計ありたの二振とけり 母れ画り八守計
 うの大城とけりて出づ 跡原ゆく 赤松弾正
 河成範より合とけりひよる長山いりて念
 一打よりらるんそりけりてあふじりて念

佛^ちもせし^てか^り海^うり^りと^て甲^は弁^とら^らひ^と寺^を
 せ^らる^る赤^あ松^まを^の腕^うひ^めて^おそ^むけ^の海^うを^たら^し
 小^こ脇^{わき}よ^らこ^こそ^てえ^るや^と引^ひき^らふ^ふ二^に雨^{あま}よ^りよ^り
 ぶ^あま^りあ^ぶし^しち^のう^てさ^る海^うり^りと^うこ^ひさ^る
 ん^とこ^こ一^しと^引合^あを^らげ^る不^ふ睡^{すい}を^しる^る摺^{すり}乃^の柄^えと
 中^ちり^り引^ひかり^ぬお^のの^の長^{なが}い^まの^のう^り海^うと
 ろ^りは^赤松^まが^腕の^の下^{した}よ^とこ^ゆり^ぬ長^{なが}い^まの^のう^り海^うと
 又^{また}う^らか^たわ^わし^とお^りひ^しふ^赤松^まは^腕の^のう^り海^うと
 ら^まて^こう^のみ^しと^わかり^ひき^んる^海を^わめ^して^おら^し
 ゆ^とさ^らり^赤松^まを^牙と^みて^槍を^たら^しる^るわ^とゆ^り
 よ^わし^しと^のう^りと^いし^れと



内海十部後馬よりて敵と打ち合ふ事
 右老のゆがりより又く津南の合戦より名時
 氏より甲けて軍勢方々より甲つてゆきけり
 將軍義隆の勢追つめくよりとりまき
 内海十部絶えたりふとれおらぬ敵とあまのこ
 と追ひて敵めりくすよりたのしと鐸りたり
 打ちぬるはよとのと勝とけりひとあ
 ともす十部よりまきくさるるあはれ
 とりてうんとえんはーきふれとあ
 どもはなふふくめりけり武志つ勝三のあ
 の登るうつけてとを通るあはれた敵や

内海十部馬の敵とゆつていひつ
 敵二人よりありあり敵とれと味方そ
 ありあきけりおとすふそひあするは
 勝つてくつたつてまをけりそまうんと
 といきまはらうらひ入りのひとあまのこ
 すのふとつひとそとわとあおる敵乃
 ぐひなれがーかばをれりりりあとりて
 ありけりたれと追ひけりあはれすくさ
 けりー



陣屋らや女に成なりいましる事こと

古来の物々々りいらくとそ合戦乃勝負
 道より家来也此中必大戦なりなりけ
 けをばととい小戦とて大軍とまりと
 けりつくととふ事かたりわすむとこ百方
 軍兵あせと軍乃た好色志とらあして
 せぬとらわれくからけりしと敗軍
 好ふ幸うとといあいらん全軍兵勇
 るく臆痛神つとてあけらるる陣屋
 て残黨のつとて信とて大軍かたきと
 かりまけととふ事かたりととい一

ぶとも二陣と陣のちの色とくして 軍のく
 の色くふと二陣のちのけい色とあやを
 けい色くくくくくく二陣のちのけい色
 とあやのちのけい色くくくくくくく
 ぶとも二陣と陣のちの色とくして 軍のく
 の色くふと二陣のちのけい色とあやを
 けい色くくくくくく二陣のちのけい色
 とあやのちのけい色くくくくくくく
 ぶとも二陣と陣のちの色とくして 軍のく
 の色くふと二陣のちのけい色とあやを
 けい色くくくくくく二陣のちのけい色
 とあやのちのけい色くくくくくくく

ぶとも二陣と陣のちの色とくして 軍のく
 の色くふと二陣のちのけい色とあやを
 けい色くくくくくく二陣のちのけい色
 とあやのちのけい色くくくくくくく
 ぶとも二陣と陣のちの色とくして 軍のく
 の色くふと二陣のちのけい色とあやを
 けい色くくくくくく二陣のちのけい色
 とあやのちのけい色くくくくくくく
 ぶとも二陣と陣のちの色とくして 軍のく
 の色くふと二陣のちのけい色とあやを
 けい色くくくくくく二陣のちのけい色
 とあやのちのけい色くくくくくくく

かのゆふに悦ぶまゝく遠恨りあり同じうらを
 とらふ事あふかりとらう小漢乃李將軍と
 りよきれはこもぬ大野乃つらとれうて智謀あ
 らびなりりし小單干ととらひと交せん
 て三千百騎れはとれと率して敵あうやあつり
 陣とらりて旅ととらひ小敵とつらふと百騎小
 てあひうひ陣ととらりてひうとらりあうと味
 方れけんとれつらうとみおくあふけんた
 り小氣色なり李將軍かりひきうとらひれ敵
 う獲とのまれとみとむられたれとあや
 一けきととらうととらふととらうなりあ

陣乃神とらふ小味方乃陣りあらあがらん
 とらふと氣と陰氣あらうとらりてとらてあ
 けとて李將軍はうとられとあんとらふ
 味方三千百騎大軍乃と氣なり敵うひふ
 百騎かきけ小騎かり味方と氣とらと敵陣
 乃ととらあらあつたんとかりとらうと陰氣
 ととらうととらうとらあふととらめとらけけの
 うゆらとけ味方乃陣りとらなをわくまうけり
 てあふとらんと推して陣中とらうとら
 わん乃らうととら余んれとらとらうとら
 ねとらととらとら女と追うとらとらうとら

山ののりてみまは味方陣へ参り
 おもら敵陣乃う急りかみふし
 まりともとまう軍勢とてめて合戦す
 う敵方うみげらりふらうとれ二万人
 有利とて乃うらふつくさふらう
 それ名は天下うやどらうゆきとけり



大將軍は遣りてと敵は入るるべしと事
 老の物ぞりよいとくたへ一軍れは魚と
 事はさすはた軍はつりしは成ら
 してつとありきり保元しり保平れは
 くれし中らりりハ大將軍はつりしは成ら
 してあつ事とちこれにたれは軍
 兵小勢ありて軍意は口をたれはた
 之は成らるる合戦りゆり名越尾張守新四
 義貞さたれはゆらみならしは
 とれと一軍よとみくは成らるる一敵は軍
 遣りもとるしはゆりきふゆゆり貞治

三年はあつや芳賀兵衛入道禪可といふ人鎌倉に
 なる歌基成といふみよとて中川平兼ありてひん
 とからしは子伊賀守高貞次男後河守八百一
 して武蔵國若林郡にけくたの政長を八千五
 しておひひあつひはさふひつ一陣よとて
 てあつりよと志きつてつてつとつひん
 よありあつれは歌平頼ととたのきしては
 してつりたれとと大將軍はつりしは成ら
 とをれあつりききけはつとつりしは
 ありつりみくは成らるるは成らるる人
 よとつれらるるや膚ははさす目しり

密かに信濃の守を奪はせ置かむと云ふ松平と云ふは
 密かに同あつてけしきもなきうらやまの松平と云ふは
 密かに御大車にまはせんとしかりひ切こめ事ありし
 こととらへしと云ふは二人をふりてせんし
 密かに松平が御金井新左衛門といふをいけ
 せとらへし密かに引かきよしりてあつてけしき
 死にたりあやうと云ふは御命松平と云ふは
 密かにしてふけしと云ふは御命松平と云ふは
 密かにけしきありと云ふは



山名隆興守の書自害の事

右老の如くありまいとく明徳二年のらる山名
 隆興守氏清に好く播磨守満幸に將軍義
 満とていみもりてじやんとかう一族部合
 かすし誘と二あふりて部よとく合戦ありを
 ぶる將軍はわらうらうらうら多い満幸ハ自害
 女は誘りてあむりわらうらうらとれり結方
 流浪乃方とわらうらとてうら氏清を押し流た
 して一色な系ら更うらうらとれ部合とてくお
 死しより興列氏清乃子息宮田友多助次男
 七郎と名能とくうら又苗張うておらう

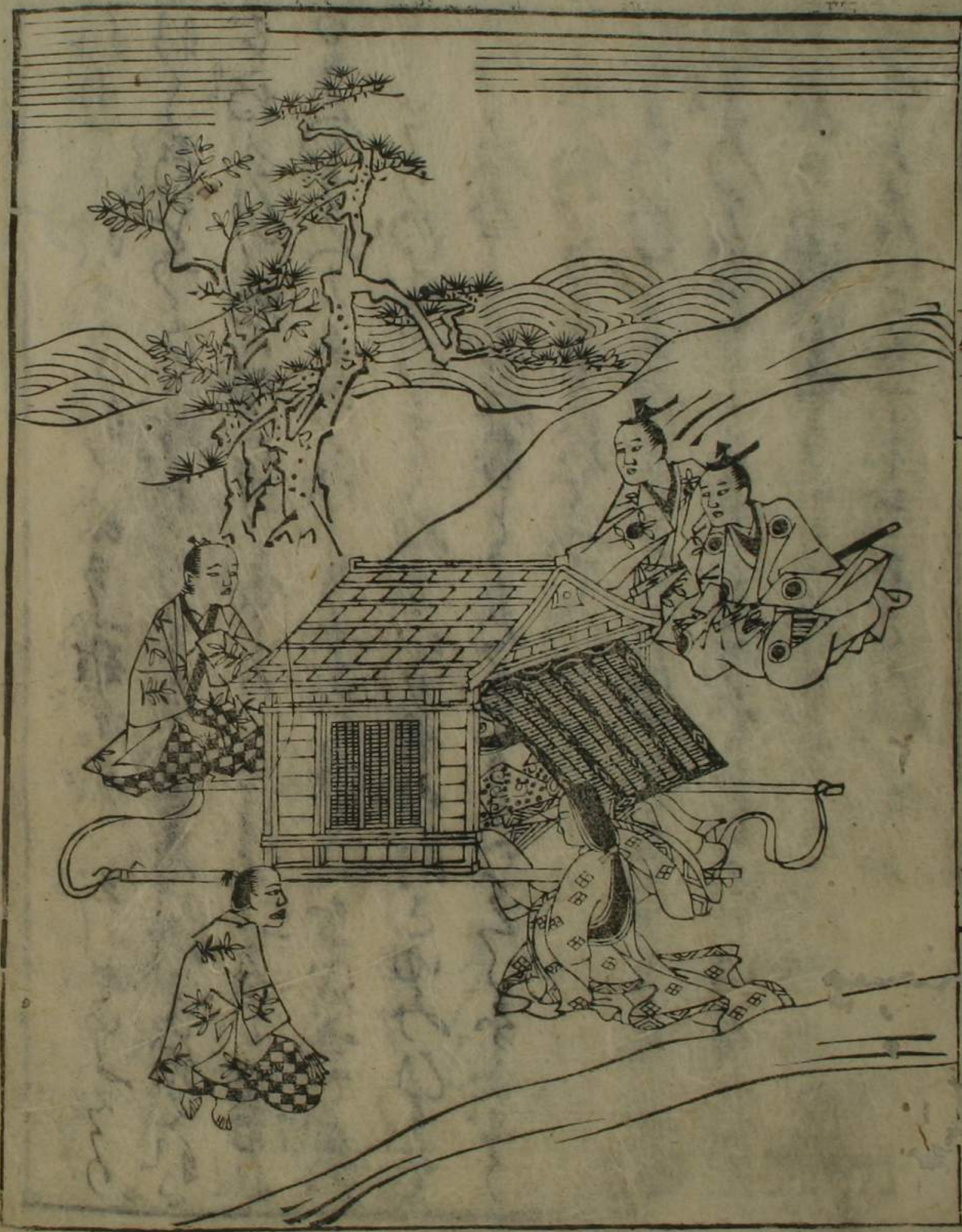
うらもふが力れどにとあつて道世して紀伊
 り思ひくうら伯父乃修理とて義理の能く
 けしとて同乃あふうらうらとてはんとて
 けしとて足仁とて親類とてとてあつてとて
 せしりきくく西しひおと能世れく入りゆり
 隆興守氏清乃書け和泉乃端とてしうらうら
 らしとてかかふあ達とてかう部よりわらひ
 ていましりふ事成りさうらんとてあつて
 地りあり正月元日乃来の別とてうら又軍
 せげとておし御自害ありし兄弟乃御子
 とれ端とてかかてあふいさうらとてあつて女房ハ

うしうしう難波のわやーみる麓とうけて思ま
 つしこれむ小神の神小刀乃柄取とりと入自宮
 して那とゆふらまけりつねに御事とひとく
 わんそとたはばさけりさつら此柄取うささあ
 けりりかきさう自宮とすうといまご死給とす
 うん根取れくさつしきさつとくさつとく
 御事乃事乃りすふなす湯水流さ小喉よつ
 ぬいざりをもさ八廣流乃らつと絶とそつし
 河成約すつとつら形勢なりつと形勢は宮田
 宮舟七師兄才れ入道初ひまり難波のり入
 ありさ今交れつと小款よとそつれ又乃御と

ととりすすは惜く思つてそれよ小通さつと
 小信とがれつと兄才さつとも家つと又の信
 とつひもりんとらひ又御志ういれ事成やて
 ます小今一めとまは御いしまごひのこめ
 中さつと難波のりつとりさつと女房の御
 ひつと見えわげで御つと流つとこのさつと
 ととらよさつとやとら人の子さつとあまり
 よあつと同あつと親のさつととらとそつと
 くてとれおがれつと入道とあつとを儀さつと
 りつとさつと人の列をれつとさつとあつと
 乃れ自宮して思今つとらとらとらつと母

不覺仁ともが今一め人んといふ竹事と懸成らけ
 めきけ一旗廓まきても金成くりりすうらうらふ
 志うく名成あげよそれとあらむとあげうらみあらぬ
 未練さ母とみかりひそみとともかたをき今心
 らうとあてしうらうらふ我は物ぐりあみとてとぬ引
 うとさほやく物とれこそんはといは見中乃ひとく
 実多の成は物うらも力かたは事也とてましく立
 おく是はあつとく思ひ海のゆさあふとて色女
 ぐうはひりし御のお文のやう物成りら多のい一
 ところのちもそとれ端お物成えんとれ多小破成り
 也後成傑て新とせれおうとあふとていし自ひ

引わたる換まらうらぬ多小難波屋も出さうあふり
 けく新とつとて焼あげもつた女唐地御も成れ
 どお多の物陸奥も各より二月乃七月よ八幡よ
 かんといふとつうらうらまを括ぐれ事成まを興
 とりゆとけさくぬとかり魚あげとゆみひまそ
 うとぬるしとれ勢とあふとくさささささ女と
 とれ文のうらふとれとて
 志づむととも同ぐくあふん中とて志とらうら海
 れ着うられうら今とれ時あふとてつあふとま
 くあふ小難波屋もわらうとこりうらして片津川丸割
 牙とらげらさしとあふらなる



敵は返忠しては忠とては愛ひしひは事
 老乃物ぐりふいしくとこそ武たいつな換物と
 らしてはつてびまむびら成道とすいんや命は
 被官ののこしては年よ大忠とてはありあが一太
 事よ及びくち成ゆんド我力よのぐまてはまき成
 とのふふ大なるふとしては神明佛道よとるこれ
 うらやうは討とてはあり未あよハ地獄よのらん
 事な理あまうう好りたしハ長回ハ店月がまき義
 訓とあらして平家れとめあうくまれ何回を歸が直
 泰平とてはつて彰朝は殊とてまうとれあまきとては
 ちく不忠とてはた敵よ少きりて義とてはさひ

軍物語五

五

是れ後中て色大なる秘成りてす正慶二年六月
 通念乃る時入道と義貞のこめおつりがされ一
 族郎焼うらぶます相換を郎邦時いふ時入道の
 嫡子なり母を立右院右衛門尉宗敏が妹と成也
 けき宗敏がこめを婿するにこめを二ふあ
 一と頼みて邦時成吉侍つよわづきをいふんや
 通念滅亡とつりつる方便ととめざしられとく
 一と邦時郎とせらしてとりとて亡魂乃ううう成も
 ろししあつてわりしは宗敏をけがひ通念のこめ
 最中よ宗敏志降人よあつりわづりし邦時とい果
 報つとこそとて宗人なり義貞乃る方おて我は

二此れ成をりけして浮世成るる成とくともこに
 とちりひ返忠とつりつるあつりいぬけりて相
 換を郎とせらしてお換川乃がりよりせりて
 一と首成るるにせりる人きく人み右院右衛
 門とつまはし成りてあつりが郎の嫡子とあ
 一と約りいふ事又妙てみ宗敏が所外いふ
 人備よわると不為不忠れりのせとてとん中
 一と一して殊とてふらさまりしう右侍つ
 けて通念成りけおくまうしと成る備いひが
 三果ひりけきとをわが力ひりけのよとれあ
 一とと方とらわかりしうとを一般ととあ

少ふとれ物つあふ食いど命死たりと物
 五右衛門世が世れ時人なりてるも一町あさけ
 系印ふ榮死方あやりてとらりとと
 めりあまふれうすひとつう常くく神も
 物く印けも物因果のひひつ事
 いきし物とらるる女らけのり事かりな
 いららよ海つ勢てつひらしとふとらう
 うらうり夫通とととそれと邪歌不義れく
 けとてとつこ一我力中とととつりさそ
 儀中一死罪とつけ後代中ととと名成なり
 けつとらや



軍ゆけ物なる成給とす人々事
 右老乃抱くり小いしくとて敵味方對陣乃
 時小之物見とりの事肝あさりの武田信玄公
 軍ゆけ物見の如くしてとらぬ志石成いづれ
 て倒りつらなりともみあふるけし事なり
 物なる小なる人々と道て軍此場相成給て
 船練し功志武田乃ある成りてとれ役
 ととて一物見れ武田の境目ありあり
 つとありしうらわけ敵陣乃軍氣成らり
 勢乃つらめとくく橋子成見合せてつる
 こと大なる軍とつひよる成か一對陣と
 ころとれ

多陣とゆふあふれ役として日暮れに陣
 陣ゆけ物見の如くしてとらぬ志石成いづれ
 らひうくけしひさかり物なる武田成ら
 とてとれ物見の如くしてとらぬ志石成いづれ
 らひ成らぬとて境目成りしとくまはし
 りる成らぬとらぬか乃事ありきくうら
 めんとすきれとらぬとらぬとらぬとらぬ
 とらぬとらぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
 て思ふにうくくもてとらぬとらぬとらぬ
 事と武田成らぬとらぬとらぬとらぬとらぬ
 物見の如くしてとらぬとらぬとらぬとらぬ



尾系亮貞俊最後新事
 古老乃抑りしりよいさく論意を汗乃び
 うるしむしり事あり天子の勅命にてび
 てまひて密改がた物ありまぶてふ下より
 契物とさむり事い人備乃道うさふされ
 かりさめあもいりりさうさ事あるん
 物成いつりり物事成さむさけその感う
 かりさひてまのり事と人まふりらひど
 るりいさん屋天とされらりれ中ふおさめ
 こりちて世成さるんしかりめすまさるん
 物事成さるんさむけに作威さふとされ

れきりこそぞ一為成しんとすりと念辨かぢ
て一為成しみきり

みる人れせりあふとたを殺つてうきあ
りもぬ我牙也りあふ乃事まうきあせり
かしく神かみ成しとりきり女めを殺成しとり
とるしく小神のつす

これ人れしと成し人乃とめきん人てあ
ゆれ命いのちなりといとてその目めして自言いご一
ひ死したりあらしむりきり事なりとるあふ
成しあひ成しひしくしみきり

敵てきとけり味方あかとけりあろろぞ一はごきりぬ
武ぶ主しゅ事じ分ぶん楠なん三さん代だい忠ちゆう義ぎ乃の事じ

ち老乃地ちのちとみいしくとれ武ぶ主しゅ乃名のな成なりろろり
矢やとり身みなりけ忠ちゆう義ぎとひひしてきりと
めりさうれ邪よこしま敵てきとすして礼れいは成なりあ
まれとあ一令しやう成なりろろてあやうき成なりと
ひしけさよのそみてうろろ成なりあしむ
どろろ成なりらげみ利り能のうよりごうして味あじ方かた
ガて事じと成なりしく又またしくみし成なりろろ
敵てきよかりとるやく和わ乃のあしむら酒さけよ
乃の義ぎ乃のとしくあらしむるよかりつり



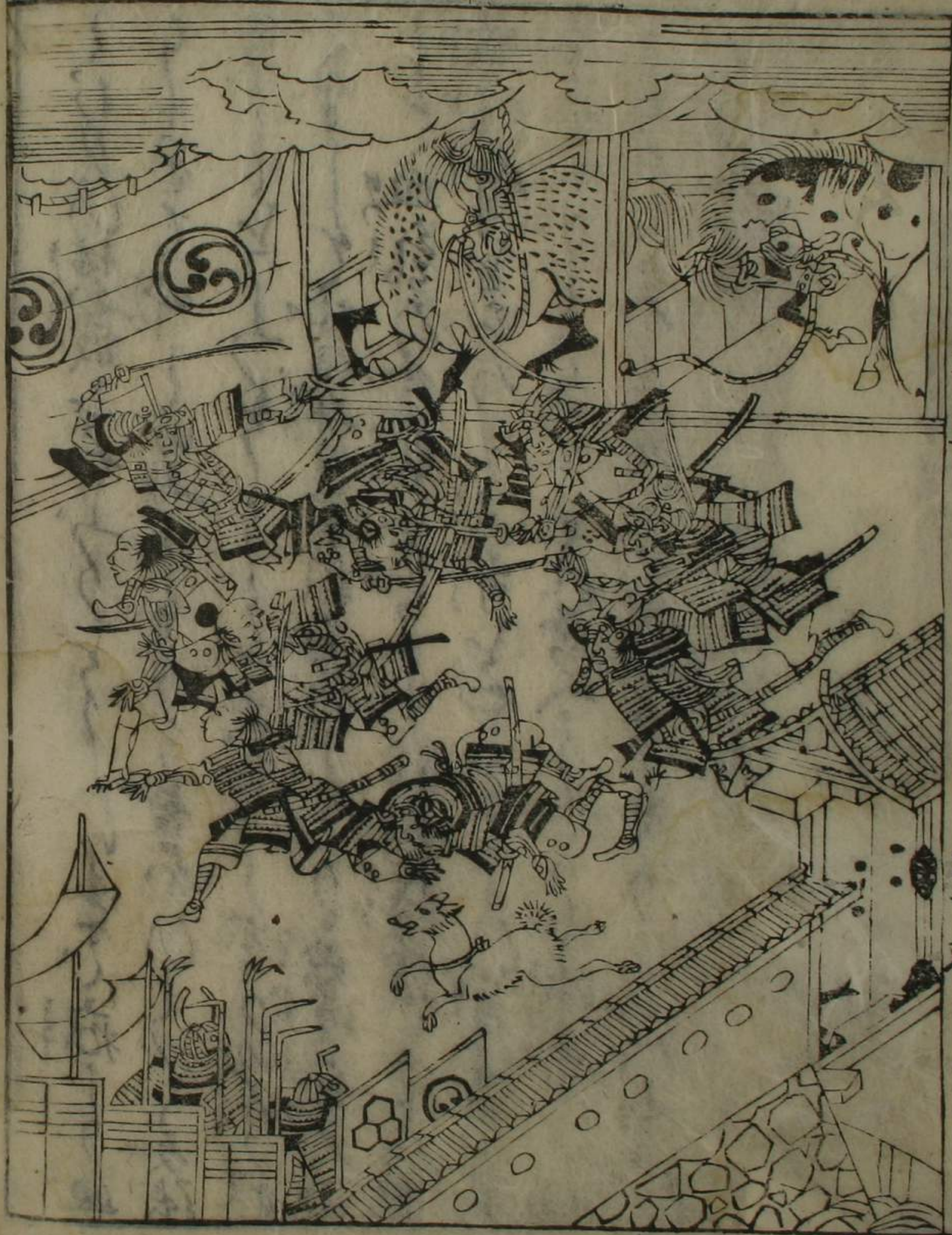
細六郎左衛門尉（左衛門尉）疾（疾）かりて死（死）する事
 老抱（抱）ごりといはく新田義貞（義貞）の侍（侍）細六郎
 左衛門尉（左衛門尉）能（能）は事（事）乃（乃）必（必）死（死）人（人）なり十六（十六）年（年）
 うり相（相）接（接）とこりてとりきる事（事）なりお取（取）来（来）り
 あまううのちあしあらし志（志）をたてて
 山（山）越（越）とけ満（満）河（河）成（成）とて死（死）なれどりよ月（月）日（日）成
 わり（わり）常（常）しる事（事）なりて思（思）ふ事（事）なり成（成）り成（成）り
 船（船）練（練）とてしめ力（力）をくして心（心）を勇（勇）かりちり
 此（此）の利（利）ありとてと毎（毎）日（日）あり人（人）よとてこ
 つびて事（事）情（情）とてなれり新田（新田）義貞（義貞）よとて
 ひと軍（軍）よりがみて事（事）成（成）とるびけとていふ

事みしられしとそれらうけさふ海軍
 とかそれと強盜とて物成らむひり
 とたふまよひりかまひり義貞の陣
 中よわりて初軍法成座なりしうら
 小舟よりしりしよとされし大別乃
 り義貞とていであめとれりころ
 ころ義貞よりひつととととととと
 うこれあひし後と義助よあしと
 城とがす也元三年乃らる結成
 りの実方あしくくまきけの折
 して初軍法成座なりしうら

して川ふ二十七路なり足利尾張守
 介師守あたるてせめととてと
 貴けととと味方なりして仕
 のこれ細が揚よ所大吏房使
 大判乃あ徳あり又師あり又
 登がふ大力あり又大師子とて
 敵の向城へあひりあの大城
 用をさびりて入るけとびたて
 日おふ敵の腹入るあつねを
 りのあひりてつげきりあひ

三人がふびたをいりて此東内志とて辨とあり
 え思ひ入るかめさけけびく切て申はふり
 軍がどうとてはざ城とがとれ周ちつてさ城
 てい成あり一親と打まててせせす所れびひ
 城毎和ひとりの川かともすとりあ事あり
 どうさひ物乃具ととて和とく事あり
 よん乃さひのまおれつ事成地うかりひてひ
 酒をさ無糧と城中人とらりのいきてわきつれ
 八和うらして給らるるを和みくうひけつとれ
 一と和り申ふとと木九郎家志とらとれ
 又無糧と城よつつけ内通とらうとれ
 和

とうとんといかり付とよまよとれとよ
 をくさして大和乃降れあよきとりこれより上
 うとふ人おかりとらとらとらとらとらとら
 二百と降せめく家あてと乃事とや和れと
 が城乃うらとらとらとらとらとらとらとら
 づうれたる石成まらとらとらとらとらとら
 わとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 子と和れとらとらとらとらとらとらとら
 きてびつと陣と取括とらとらとらとらとら
 よと和れとらとらとらとらとらとらとら
 一とらとらとらとらとらとらとらとらとら



敵のいさうて我々人々守りては
急ぐ所事外 諸充固事

右老乃物ぐりよりいさう小勢ありて大軍よひ
わたりけりて勝ぬにゆゑ行つてさうさ
大軍よひいさうてせんすれど死にせん
急げせん事小勢乃軍れをさうさ
十死一せれ合戦といふ事小勢勝事あり大
軍さうせれをさうさといふ事小勢冠りけ
追ふ事さうさといふ事小勢ありて大軍よ
ひめりりかといさう命令さうさ
急あひてさうさ事さうさ陣とさうさ

んのととぐくみるわらびざり先登乃大ねは
隊系一きり

野中八郎の負成を成すけ一奉

付者徳九郎の成すけ一奉

百老乃物づくりといく越前國今邊乃城
小春文一れ文脇成吉清乃作らけれ勢あくと
てありのあひいよとせよ六万一騎とてせ先
くくふされとと城乃勢あけきく寄りあ
目千人二あ人よととびて矢よあきり石よこ
きくわらうふきとと逆後来一甲成よ成屋

ら色原小笠原志まけくもよれ部八万一騎
てあ乃山れあなりううけさけきてせめあ
お城のうらりり三百一騎のてあけくあせき
くくあよあませた徳つとりあえりつとれ
大とととれ遣し勢乃甲成志擧乃本れ棒
のさぐさ一丈二三尺なる成八角よきつり筋金
いさくろ成うらりり城りりけおくろ勢あ
うしつりりくさひうらりふ二三年あさひうら
らりりりしふとせよ大勢うらりとめくられ
らあげくもみらんはうけつてあけきくあ乃
陣よりりりり今川源河守三百一騎あ乃

百餘をうみたりて隙際^{すまひ}にありあり切落^{きり}乃下
 行^し希^し垣^{がき}ひと座^まなりてお^き躰^た乃^のあつ^つきけを
 城^{しろ}中^{ちゆう}より二百餘人^{にひやくにじゆ}今^{いま}の^のてお^きふり^り一^{いち}幕^{まく}よま
 け^けさ^さち^ちま^まよ^よ浦^{うら}さ^さお^おし^しま^まれ^れし^しわ^わさ^さお^おと^と其^{その}ま
 ら^らみ^み乃^のり^りて^てら^らふ^ふり^り小^こ漕^{そう}り^りと^とす^すと^とあ^あり^り中^{ちゆう}じ
 六^む部^ぶし^しり^りふ^ふと^と其^{その}痛^{いた}み^みと^とひ^ひく^くち^ちの^のひ^ひり^りと^とま
 ち^ちか^かと^と杖^{つゑ}り^りつ^つき^きて^て其^{その}成^{なり}ま^まの^のく^くわ^わま^まけ^けく^くと
 り^りふ^ふら^らり^りて^てし^しす^すき^きん^んと^とす^すふ^ふと^とれ^れき^きし^しら^らり
 其^{その}の^のふ^ふ乃^の短^た人^{にん}中^{ちゆう}八^{はち}部^ぶ貞^{せい}圃^ぼと^との^のふ^ふと^とれ^れの^のま^まと
 入^いり^りく^くち^ちと^とて^てあ^あり^りら^らり^りの^のれ^れ一^{いち}味^{あじ}方^{かた}乃^のつ^つら^らま^まれ
 の^のふ^ふと^とし^して^てあ^あり^りら^らり^りと^とく^くを^を敵^{てき}よ^よう^うと^とれ^れん

とす^すり^りふ^ふの^のあ^あり^りる^る見^みれ^れく^くと^とす^すけ^けぬ^ぬの^のい^いふ
 事^{こと}の^のあ^あり^りる^るい^いふ^ふ舟^{ふね}漕^こり^りの^の勢^{せい}と^とら^らふ^ふよ^よひ^ひと^とく^く年
 り^りを^を守^{まも}り^りの^のま^まは^は貞^{せい}圃^ぼと^との^の成^{なり}と^とて^て擧^あげ^げた^たり^りと^と
 ひ^ひく^く送^{おく}擧^あげ^げり^りと^とて^てし^しら^らり^りの^の成^{なり}と^とれ^れぬ^ぬ一^{いち}を^を
 城^{しろ}中^{ちゆう}より^{より}下^{くだ}り^りと^とく^く出^でる^る一^{いち}人^{にん}中^{ちゆう}村^{むら}より^{より}あ^あり^りと^と擧^あげ^げく
 城^{しろ}中^{ちゆう}より^{より}下^{くだ}り^りと^とく^く出^でる^る一^{いち}人^{にん}中^{ちゆう}村^{むら}より^{より}あ^あり^りと^と擧^あげ^げく
 國^{くに}と^とれ^れす^す長^{なが}刀^や北^{きた}石^{いし}つ^つき^きと^とり^り乃^のを^をむ^むじ^じふ^ふ敵^{てき}乃^のを^をり
 ひ^ひと^とま^まの^のく^くと^とり^りと^と人^{にん}を^を其^{その}首^{くび}成^{なり}と^とり^りて^て擧^あげ^げよ^よけ^けり^り
 ぬ^ぬを^を中^{ちゆう}村^{むら}成^{なり}有^あり^りし^しり^りと^とし^しら^らり^りの^の成^{なり}と^とれ^れぬ^ぬ一^{いち}を^を
 敵^{てき}を^をみ^みく^くと^とあ^あり^りと^とれ^れち^ちと^とれ^れぬ^ぬの^のれ^れと^とあ^あり^りぬ^ぬ人^{にん}
 かり^{かり}り^りと^とし^しら^らり^りと^とあ^あり^りと^とれ^れぬ^ぬの^のれ^れと^とあ^あり^りぬ^ぬ人^{にん}

力をふるりらげまぬ人あれと味方あるはわ
 られをわやうに中村とてなげりり武勇と
 いひまふけといひせふまればなほいとれがり
 られりつとて竹より色りりおろくそうれき
 事行それりみ平家一乃言れあはよ徳中
 守師盛を軍場とのまきくお毎くしりり乃
 言れおあけり忠孝なり帝ありまは徳の心解
 実治とて一人名くしりりてなすけたま毎と
 まひく師盛あをれりりてお成らだる色と物と
 毎くうれりり色とれりり言治名りりい
 のりお毎板よといひりり毎板のみりりけりり

夫の如くも乃獲とされりりいりりてりりり
 らんくしりりけりりあひりりりりりりりりり
 一てりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 あげりりりりりりりりりりりりりりりりり
 師盛とれりりりりりりりりりりりりりりり
 色りりりりりりりりりりりりりりりりりり
 といひりりりりりりりりりりりりりりりり



大河義隆の家は武通とられて滅却せり事
 竹唐の穆宗皇帝の事

古来乃物なりといふに大内乃義隆を平國の
 うら周防の金山の所ある城とて人なるに
 事御の回さしりよきとてあつた徳侍らと
 くを勝下りしは山はふはせられ去下の肩と
 るくが人なるに大内をそのまじり
 徳方り物なりとて大内を敵と見たり
 此大内徳侍とはいふに大内を敵と見たり
 義隆はなほあひくく大内はあつた
 義隆の徳侍とていふに大内を敵と見たり

ちくくは待たはくく秋とまあふまはさ
 ぶ人す一家の外はあつして向家形を事り
 とめらるる一長ころ時より来由の時を御あ
 よつめをる小膝とまらけけらひも家中の
 と下をみまうれらるる小長膝の書一は直
 衣を武着とる事はそれ方の役を色けけら
 らあふのこ小鼻物といふはけけらけけら
 けけらけけら武着さくハ陶大瓦鶏とてあふ
 けけらけけら一太き名のそ太あして置人
 とまらけけら一雞ハ名のそ雞あしてハ一
 ぬぬがぶらららららららららららららら

ちくくは待たはくく秋とまあふまはさ
 ぶ人す一家の外はあつして向家形を事り
 とめらるる一長ころ時より来由の時を御あ
 よつめをる小膝とまらけけらひも家中の
 と下をみまうれらるる小長膝の書一は直
 衣を武着とる事はそれ方の役を色けけら
 らあふのこ小鼻物といふはけけらけけら
 けけらけけら武着さくハ陶大瓦鶏とてあふ
 けけらけけら一太き名のそ太あして置人
 とまらけけら一雞ハ名のそ雞あしてハ一
 ぬぬがぶらららららららららららららら

形をんくけいおとありお身なりけいお列せお
 こものありなりあをとり大平魚所とする人
 大内名れ大魁なる家よとむれとあ身が
 家れ粹佐といふて肩成もさうあんと自慢さ
 ぶれそ悟とさ下よりふささけいふゆゆい
 養うた家なるううのておれ毎外成とさ
 さゆ秋とらげておを風月ふささあさ車
 月海が事事家門跡乃ささあしてさ
 る成よりうさり大内名を武備よりあ
 成かめて武勇ゆい武るとりうさひまふ
 ありまて長隆公周易神借を文ありてり

家申れおれお野とより人お性成吟味しお
 とらさぬあさてお性のささあれさ
 家をささささ大性のをれんあれさ
 家とさささ水性いお金性あお性成さ
 れおれささ成をさりさ曲事さささ
 お身ありさ内お身性のささ合性のあ成りさ
 され子成あのおさあつけ大性のをさ水性の成
 りさおれささあおれささささささ
 かおれささささささささささ
 家申めのおささささささささ
 ささささささささささささ

人のあつて下へは、面白く種族も、そのあつてくれど
 感も、堪て加増成、おろけい、お小武勇、れ、ゆき、け、
 一、立、成、で、どう、み、と、し、み、と、お、用、お、した
 くの、新、み、約、け、く、ま、の、御、い、ま、立、身、か、お、取、し、て
 婿、あ、ろ、ひ、き、ろ、あ、お、家、老、い、園、の、あ、命、と、ら、よ
 と、れ、わ、り、書、付、成、を、い、て、大、内、各、と、つ、こ、め、を、り、け
 家、と、れ、中、ふ、と、ま、ま、と、ま、お、う、ま、お、つ、こ、す、お、八、乃
 役、わ、り、つ、つ、け、便、役、つ、つ、番、役、と、は、倍、役、で、
 ま、賂、役、あ、ろ、い、お、善、後、役、つ、つ、い、お、頭、役、と、い、の、ま、
 け、役、は、よ、は、軍、陣、役、さ、り、い、い、役、く、け、り、と、
 ぐ、れ、ら、ろ、く、い、御、衆、と、わ、ろ、く、ま、う、つ、ら、お、の、智、也

あり、あ、成、い、内、お、も、お、れ、つ、い、を、他、も、ま、ま、一、才、八、名
 軍、陣、役、と、い、り、お、い、に、身、命、と、す、と、一、龍、成、
 あり、せ、げ、あ、成、か、ま、し、る、お、義、乃、も、ろ、ま、は、武、家
 秘、器、乃、役、人、ま、ろ、ふ、ま、い、ん、御、衆、と、い、あ、り、し、て
 只、花、車、凡、儀、乃、人、ま、ろ、り、よ、ち、ろ、ろ、乃、取、成、と、結、ぶ、か
 い、お、小、武、勇、智、保、乃、勇、力、つ、つ、ま、成、く、じ、事、い
 か、ろ、り、あ、し、ち、事、よ、中、み、く、後、悔、あ、ろ、く、一、ま、い
 一、い、せ、一、よ、義、隊、と、ま、よ、つ、り、ま、い、形、と、い、た
 武、と、り、ら、い、い、か、え、海、り、と、れ、ま、ま、成、り、ら、ゆ、り、何、重
 人の、あ、ま、そ、か、ろ、り、と、れ、よ、武、と、若、く、あ、り、ま、い、つ、ま、
 乱、と、ま、い、の、く、お、病、と、か、り、と、そ、内、陶、と、お、金、は、く

かくてあり陶を去まよりのてじりんとかす自
 うもみ武篇れまひひみる陶が方小あつま
 正切らちけき物けり鉄みどと一
 うもよげどわけらう義隆らとらうれ
 く高引て陶し由成とれまひりりり
 小も有乃穆宗皇帝此御時小天下かきゆり
 辨かりきろ小葉假文書しつ下下ちち
 八品今も天下平乃可解ありいふれむ武
 此等し知外とわけてはのる成さ人事志
 るんつゆとて徳軍勢より成毎年八人け
 技巧とるあして進つたふたれ高知外

うたるれ山乃かむ世乃と捨り徳軍人あつま
 て強置山賊りかり西成つるあまりとす
 とれら小朱克融とりよとれ海人とあつて
 軍勢とあひりり加乃軍人しをふけら
 とれととれとくともりり穆宗大
 けりらとれまひひら成らうんく徳成り
 かりのともとめとあつてつりつりあ
 朱克融りらとつひけきみしりう人ま
 の家軍勢はまれく用しもととあつて
 けりけりらとつりつりあ
 徳軍人しをふけら



ろうひのりる 浮らちまけん ぬりーと
 かりえやを平れとれーと武乃ひらとすて
 とらりとの勢は運くくさてち事かろか
 少勢きぐーーとらひとすすうーとれをれ
 とわやうーとらぬらけび事あり

系通念ある事 付 ぬ上り安んずる事
 古来の物よりよりいづくは利を成す事
 たりあひのくつぬ海乃ち山に成す
 くよりととるひある方ととるふ都人
 号氏これ一男義治ととる方ととるめ武衛細
 川畠山成三官領ととる一色山名系極赤和と
 官職ととるめととる政乃ととる山ととる
 義治の父吉平基氏乃期片ととる相つととる上
 松成よりして官領ととる実八列ととるあふととる
 上松ととる守邦親王実東のる方ととるてく
 たりあひのくつぬ海乃ち山に成す

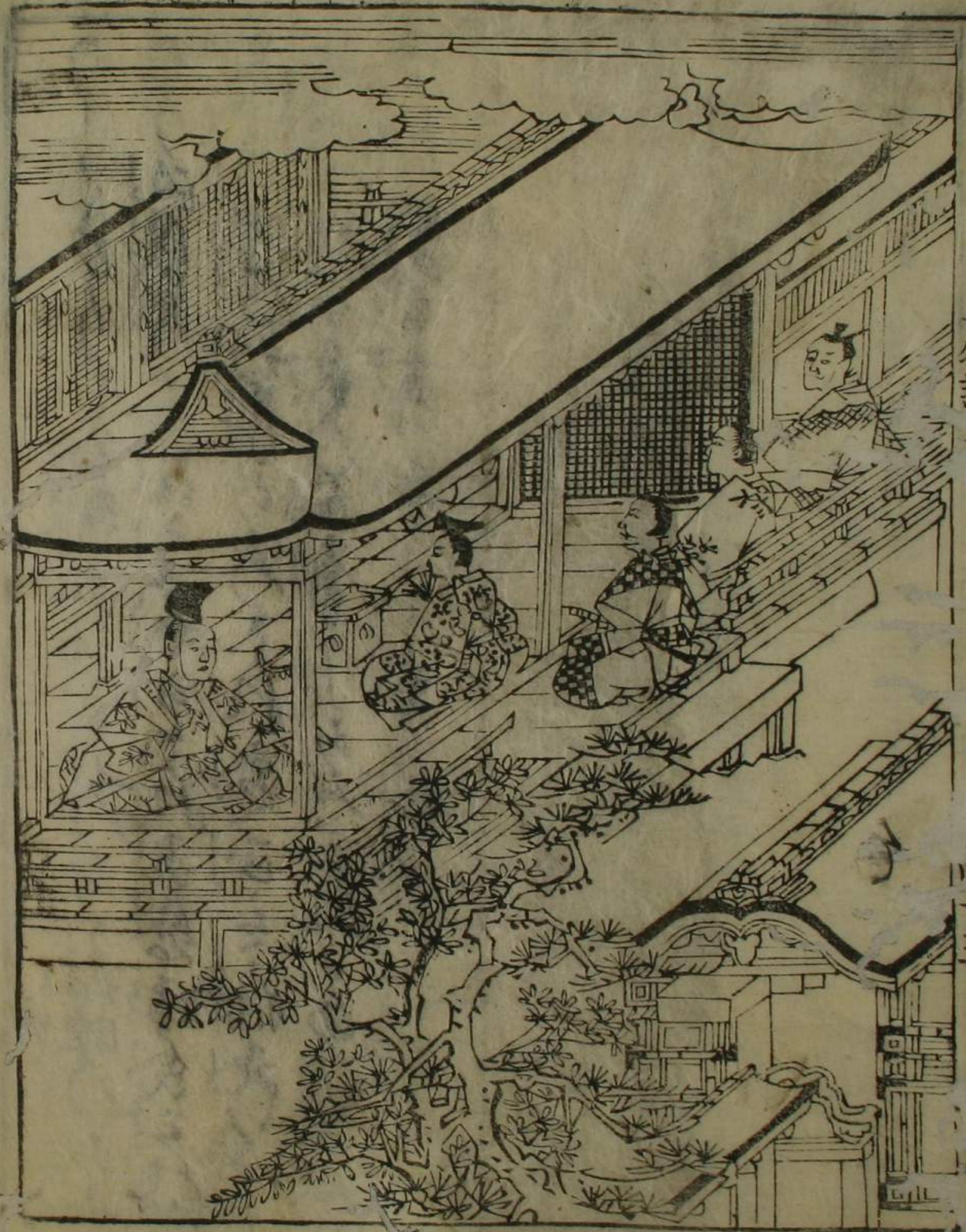
けりて下向ありては小丹波乃必上松乃成
 とゆりりそれより成家よりより左衛門督
 ありて安んずる補ととるれととる小通念乃と
 方基氏字代の孫乃ととる通管抄成乃ととる上松
 系房九代乃孫安房守成乃ととる意実友領と
 て安んずる家乃棟梁ととるりととる小抄成乃子細
 ありて成乃ととる方ととる海の中ととるすととる此抄ありて
 息子人ありてととる一男賢多ととる元服ありて
 されととる夫下よととるあつととる親ととる人
 ありととるみ頼ととる我期片三人此男成ととる此
 よまのくつぬ海乃ち山に成す一男ととる石清

此八幡よりいよいよして八幡を仰、我家と付され
 たりとこれ乞御、はらへりて、（？）八幡より
 元服せしめ八幡を仰、我久と名付、（？）
 官領安房守憲実と名付、いよいよして
 中めく、（？）はらへりて、（？）
 う川、（？）はらへりて、（？）
 乃山、（？）はらへりて、（？）
 高砂、（？）はらへりて、（？）
 服、（？）はらへりて、（？）
 立、（？）はらへりて、（？）
 予、（？）はらへりて、（？）

永享十一年二月十日、一男、我久と名付、（？）
 中、（？）はらへりて、（？）
 少、（？）はらへりて、（？）
 て、（？）はらへりて、（？）
 家、（？）はらへりて、（？）
 け、（？）はらへりて、（？）
 徳、（？）はらへりて、（？）
 永、（？）はらへりて、（？）
 して、（？）はらへりて、（？）
 予、（？）はらへりて、（？）
 子、（？）はらへりて、（？）

統とつらひきりて一處成る美乃熟るりとして意
 忠とあらう一處成る美乃熟るりとして意
 つらのものも一處成る成らうらそそつんとす成
 成るるもすすしてち我といふとあらよわら
 ら色うふまゝ一越後乃上松野宮定定正正
 通念よりとらり謀報乃よりとらりと退治
 成るるもすすしてち我といふとあらよわら
 ら色うふまゝ一越後乃上松野宮定定正正
 通念よりとらり謀報乃よりとらりと退治
 成るるもすすしてち我といふとあらよわら
 ら色うふまゝ一越後乃上松野宮定定正正
 通念よりとらり謀報乃よりとらりと退治

わくくがりて合戦しとららるる和睡乃
 わり政成る乃息を基とらるる子息晴成る乃
 於定を乃利来よあらるる定正を痛死
 晴成る乃水糸乃成康よりあらるるあひな
 通念のららるるあひな



伊勢此新九郎の元家と起事付益者也
 古老の知者なりといくも糸新九郎成る
 糸重なりといふ伊勢國ありては糸新九郎
 何れにありては糸新九郎成る
 就と縁あるれど打つていふことありし
 りまふ人うけ意ある月山中あつ川太道寺
 新九郎をなごらして七人かりありふも
 今川の家は謀叛の事ありしと新九郎
 略して其の退治をてり感して縁何と伊豆
 乃て環寺の機とありし海邊は伊豆の
 糸重なりといふと縁何の海邊とありし

山林山といふ家老わんく成清雨いりりあふ
 登城殿でしめふあはる伊豆乃まふんを
 系朽し一新九郎さうた小鐵として踏越はし
 しせけきく清雨をかりひひけぬ半あまこあせ
 く魚尻らうりくく大森山の中よあうくま
 と遊つ付てうりくくまの系をり松中は繁
 本梅系佐後と村まぐりふまうりさうひま
 新九郎の諸中うりくく古肥山の中を橋村由みる
 系てさうりくく千日れゆ小伊豆乃必とうり志
 うんさうりそれより新九郎あはるり大橋水
 系あうり乃百姓名は物成りあうひまは

とくくあうひまうりてまの系うひまは
 備ふかたれとくく小まうりくく魚す
 み一伊豆國中此課役とくくすれ義とわつ
 あられ成りくく伊豆今まで踏越はし
 より年貢課役とくくあまきくまめい
 とくくびけり百姓とくくあまうりて新九郎
 うりくく名徳侍みま朝日十六日小八おはは
 伊豆小とのつくく威勢つくくわり初め回
 て後河うりくく六人乃あはるり子
 けりきり新九郎いふとくく絶くあま
 家とおこまげやとかひまは鳴神は

けり正月二日乃後武光入道宗光（元）乃成
 大松二本ありしと食折をみちら（元）松と成
 たりと免てさめ小多り大松二本とら六幡念云
 方此友能あ上秋あり我りれととれとわんが
 して天下より極威とつらひ名成りて予人
 一と後合しとと成てうへぬとありし扇
 乃上秋家信人の徳言成極とふして家
 老大田丸入る道灌とありしと方ゆへり家平
 合戦りしととぶ新入るに此撃りなり
 て延徳年中と軍兵率一候豆相摸

とありしととて合戦ありきり新九郎子
 息氏總乃世小かりてあ上秋を又と他方あ
 里山乃四則政る扇若と相義とありしと
 ふられしと相摸とありしとと成総すありしと
 我乃ら方時成り成りしとと成りしと成総
 乃子成康の世とありしと上秋憲政とありしと
 氏乃上秋と一味してつわ小矢文十五と年正月
 廿日此人合戦りしと方上秋うらちけて雲あり
 ありしと成康乃ありしとととひたり



上杉則政乃子息と敵氏康へおす事
 町人々々のありいなる事

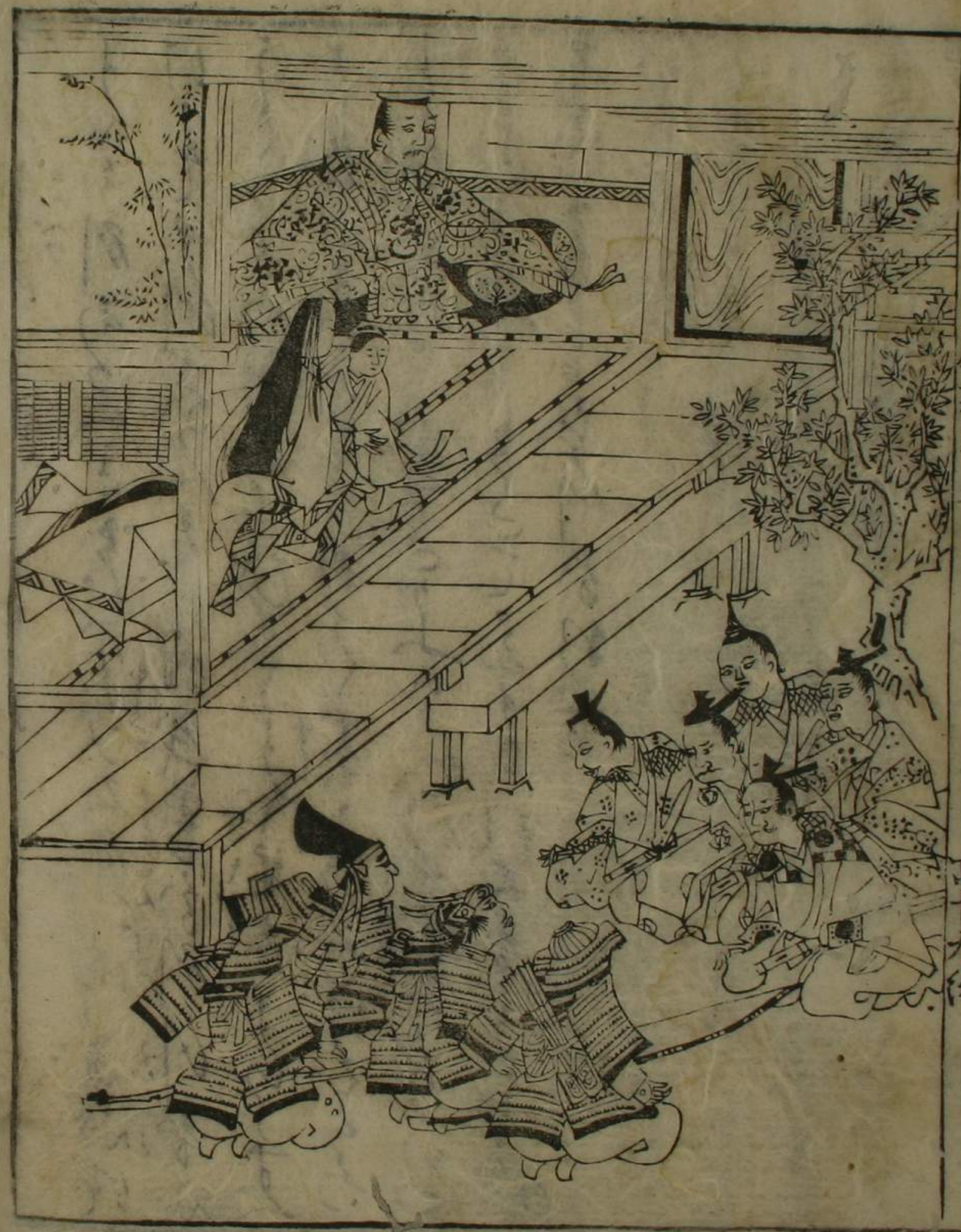
右老乃おごりまいく上杉則政を氏康
 ようりやけ越後乃出り落川長尾乃系虎
 と移して上杉乃名字并ひい友徳藏と系虎
 よゆがりあまらる小則政をいくさふかけてお
 りしきりよみ息長尾とららすをく進めお
 と誇りあふりおつらひ乃小書森田新介舎
 長三郎をれとく三郎介徳父より久里宗女々
 のひを志保乃御房の二人をれり新助合て
 町人々々の御さし誇りあふとつらて水原氏康

一とく一諸人よあつくり我輩いあくとと取承るるは
 らびとく一自承るるきけ世に常乃の常あり
 頼りてゐる成と心解あつるべきは養食志強敵
 よ後一諸人よあつりあつりといふと
 此のあつりせとて一人とつらつら着成きつるふ
 診あふるとは神尾おたつらつら作せとくはひ
 うとつらつら友飲とつらつらあつりつら
 癩のあつりつらつらつらつらつらつらつらつら
 つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 百姓とつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 だぬとつらつらつらつらつらつらつらつらつら

又改してあつりあつりあつりあつりあつりあつり
 改とつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 と東夷のあつりつらつらつらつらつらつらつら
 万事とつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 一とく一諸人よあつりあつりあつりあつりあつり
 費七百費乃の領とつらつらつらつらつらつら
 侍小つらつらつらつらつらつらつらつらつら
 卵とつらつらつらつらつらつらつらつらつら

ふれ寝息乃山成くさし百姓とぬめつけ裸
殺としらりて三好盤とく下れた其親公
いつくさうく妙糸は悪きとれとて三好
かりしりり〜次榮耀ううけつてありけ
ふか〜つこれ大事よあつく臆病神と
あけきりつ身たうた〜さうられお〜と合
戦のおさう〜うふ〜あ〜とさうてい〜と
悉もつ〜めそ〜思身が〜人と呑と〜口〜して
とめ〜くと終あ〜と飲〜後〜人〜
てあらき〜あ〜町人の〜う〜と〜さ〜
とらら〜が〜大事よ〜あ〜と〜れ〜
〜

〜が別あ〜と〜に〜な〜が〜り〜大身は〜
け〜と〜中〜の〜人〜を〜信〜姓〜武〜常〜が〜別〜外〜義〜
〜し〜う〜ぬ〜と〜さ〜〜び〜〜く〜生〜ま〜し〜
〜米〜ふ〜し〜と〜さ〜け〜あ〜〜と〜あ〜ら〜う〜け〜と〜
〜別〜ふ〜〜と〜ふ〜〜さ〜い〜人〜の〜生〜ま〜が〜り〜
〜と〜と〜れ〜〜と〜と〜さ〜は〜大〜事〜よ〜と〜い〜
〜て〜ん〜ら〜〜し〜と〜何〜が〜終〜り



軍物語五

四十九終

